

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	倍率（100%当り薬量）		収穫前日数	使用回数	10a 散布量	摘要
特別 散布	11月下旬～ 12月上旬	(胴枯病)、(輪紋病)	石灰硫黄合剤	10 倍	10 ℓ	発芽前	—	300 ℓ	1.胴枯病・輪紋病等枝幹病害の発生が多い圃地は、この回の防除を必ず実施する。
1	発芽前		水		88 ℓ			300 ℓ	1.胴枯病、輪紋病防除のため薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。 2.前年ハダニ類、カイガラムシ類が多かった圃地は、必ずスプレーオイル等を散布する。 ※スプレーオイル又はハーベストオイル2ℓと石灰硫黄合剤10ℓを混合して使用する場合には水88ℓとする。 ※スプレーオイル又はハーベストオイル2ℓのみ使用する場合には水98ℓとする。 ※スプレーオイル又はハーベストオイルと石灰硫黄合剤を混用する場合は、薬害の恐れがあるため、 混用後はすぐに散布すること。
		ハダニ類 カイガラムシ類	スプレーオイル又は ハーベストオイル	50 倍 50 倍	2 ℓ 2 ℓ	発芽前 発芽前	— —		
		(胴枯病)、(輪紋病)	石灰硫黄合剤	10 倍	10 ℓ	発芽前	—		
2	落花直後	黒星病、輪紋病、赤星病	オーソサイド水和剤80	600 倍	166 g	3日前まで	9回以内	300 ℓ	1. 胴枯病の萎凋枯死花そうや枯死枝のせん除を徹底する。 2. 胴枯病の病患部を削り取り、切り口にトップジンMペースト原液をすみやかに塗布する。 3. 輪紋病のいぼ皮病斑が枝幹部に見える場合は削り取り、5月中旬までにトップジンMペースト原液を塗布する。（3回以内）
3	5月中旬	黒星病、輪紋病 胴枯病	トップジンM水和剤	1,500 倍	66 g	前日まで	6回以内	350 ℓ	
		シンクイムシ類、ハマキムシ類	スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g	21日前まで (無袋栽培) 14日前まで (有袋栽培)	6回以内		
4	5月下旬	輪紋病 黒星病	オキシンドー水和剤80	1,200 倍	83 g	3日前まで	9回以内	350 ℓ	1.シンクイムシ類の防除には、1000倍ダイアジノン水和剤34 劇（収穫14日前まで/6回以内）を使用する。 2.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する
5	6月上旬	黒星病、輪紋病、胴枯病	トップジンM水和剤	1,500 倍	66 g	前日まで	6回以内	400 ℓ	1.ハダニ類の発生が懸念される場合は、2000倍スターマイトフロアブル（収穫前日まで/1回）を単用散布する。 2.有機リン剤や有機銅剤などは、サビ果や葉やけなどの薬害が出やすいので、7月下旬まではバイカルティを必ず加用する。 3.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する
		アブラムシ類、シンクイムシ類	サイアノックス水和剤	1,000 倍	100 g	45日前まで (無袋栽培) 7日前まで (有袋栽培)	3回以内		
			バイカルティ	1,000 倍	100 g	—	—		
6	6月中旬	輪紋病 (炭疽病)	オキシラン水和剤	600 倍	166 g	3日前まで	9回以内	500 ℓ	1.この時期以降、雨が多いと輪紋病の感染が多くなるので、散布間隔が開かないようにする。 また、強い降雨により防除効果の低下が懸念される場合は、散布間隔にこだわらず補充防除を実施する。 【 代替防除例 】 2,000倍ナリアWDG(収穫前日まで/3回以内) 2.袋をかける場合は、薬剤散布後ただちに行い、6月20日頃までに終了する。 なお、輪紋病に弱い品種（パラード、ラフランス等）から先に袋をかける。 3.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する。
		シンクイムシ類、ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g	21日前まで (無袋栽培) 14日前まで (有袋栽培)	6回以内		
			バイカルティ	1,000 倍	100 g	—	—		
7	6月下旬	輪紋病	ICボルドー412	30 倍	3.3 kg	—	—	500 ℓ	1.この回以降ハダニ類の発生が見られた場合は、ICボルドー412の使用を中止し、代替として 600倍オキシラン水和剤(収穫3日前まで/オキシンドー水和剤80と合わせて9回以内)へバイカルティを加用して散布する。 2.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する。
		アブラムシ類、シンクイムシ類	サイアノックス水和剤	1,000 倍	100 g	45日前まで (無袋栽培) 7日前まで (有袋栽培)	3回以内		
8	7月上旬	輪紋病	ICボルドー412	30 倍	3.3 kg	—	—	500	1.モモシンクイガの被害果は見つけ次第処分する。 2.ハダニ類の発生がみられる場合は、1000～2000倍ダニトロンフロアブル（収穫14日前まで/1回）を散布する。 3.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する。
		シンクイムシ類、ハマキムシ類	スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g	21日前まで (無袋栽培) 14日前まで (有袋栽培)	6回以内		
以降の防除について注意事項 ※早生種（パートレット等）の収穫時期を考慮し散布を実施する。									
9	7月中旬	輪紋病 (炭疽病) シンクイムシ類	オキシラン水和剤 スカウトフロアブル 劇	600 倍 2,000 倍	166 g 50 ml	3日前まで 前日まで	9回以内 5回以内	500 ℓ	1.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する。
10	7月下旬		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 ml			500 ℓ	1.輪紋病、胴枯病の重点防除時期なので、7月下旬まで枝幹にも十分散布する。
		輪紋病	オキシンドー水和剤80	1,200 倍	83 g	3日前まで	9回以内		
		シンクイムシ類、ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g	21日前まで (無袋栽培) 14日前まで (有袋栽培)	6回以内		
11	8月上旬	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	100 ml	前日まで	1回	500 ℓ	
			バイカルティ	1,000 倍	100 g	—	—		
12	8月中旬	輪紋病・炭疽病	ストロビードライフロアブル	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内	500 ℓ	品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の総使用回数や収穫前使用日数を厳守する。 1. ハダニ類の発生がみられる場合は2,000倍コロマイト水和剤（収穫前日まで/1回）を散布する。
		ケムシ類、シンクイムシ類 ハマキムシ類、ヒメボクトウ	サムコルフロアブル10	5,000 倍	20 ml	前日まで	3回以内		
			展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 ml				
13	8月下旬	輪紋病	オキシンドー水和剤80	1,200 倍	83 g	3日前まで	9回以内	500 ℓ	
		シンクイムシ類、アブラムシ類 カメムシ類、コナカイガラムシ類 ケムシ類	ダントツ水溶剤	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内		
			展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 ml				
14	9月上旬	輪紋病、(炭疽病)	オキシラン水和剤	600 倍	166 g	3日前まで	9回以内	500 ℓ	1.収穫期が近いので、使用時期を確認の上厳守する。 2.降水量が多い場合は、輪紋病の発生が多くなるので2000倍ストロビードライフロアブル（収穫前日まで/3回以内）を散布する。
		シンクイムシ類、ハマキムシ類	アグロスリン水和剤 劇	1,000 倍	100 g	前日まで	3回以内		
			展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 ml				
15	9月中下旬	輪紋病	オキシンドー水和剤80	1,200 倍	83 g	3日前まで	9回以内	500 ℓ	
		シンクイムシ類、ハダニ類、ハマキムシ類 アブラムシ類、カメムシ類、ナシチビガ	テルスター水和剤	1,000 倍	100 g	前日まで	2回以内		
			展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 ml				
		胴枯病	トップジンM水和剤	1,500 倍	66 g	前日まで	6回以内	500 ℓ	

●収穫後は、果実腐敗防止と良食味のため、適温での予冷と追熟を実施しましょう。

ラベルを必ず確認し、登録内容（倍率、収穫前日数、回数など）を遵守してください！また器具の洗浄は十分に行ってください。

暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

住宅地における農薬使用について

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については

極力、農薬散布以外の方法をとってください。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項（散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮）

等の遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。